

〔編集後記〕

ここに『社会科学ジャーナル』第30号(3)をお届け致します。本号にもベテランの先生方にまじって四人の新進の研究者の作品を掲載できて嬉しく思います。

本号には特にインドのM. ガンディーの精神的伝統に立脚される A. K. サラン教授が、御論考“Max Weber and the End of Comtean Sociology”を御寄稿くださり、ありがたく存じます。サラン教授は、1991年9月から1992年2月までの二学期間、社会科学科の客員教授として本学の教育に献身してくださいました。本号はさらに、長年にわたり本学の教育と研究に力を注いでくださいました橋本哲一教授と斎藤美津子教授の〔退任記念座談会〕を掲載でき、御協力くださった両先生に心から御礼を申し上げます。両先生はICUの草創期から本学の歩みをこれまで担ってくださったのであり、その御愛労に対して心より御礼を申し上げます。今後ともお元気で御活躍くださいますように。また引き続きお交わりを頂けますと幸いです。

(千葉 眞 記)